

SY-4 SDM と腎移植・透析療法相談外来の活動

山口大学医学部附属病院 泌尿器科

○多賀谷理子

医療における意思決定は、医療者が良いと判断した治療法を患者に提示し、患者に自律決定権がないままに行っていたパターンリズムが中心であったが、次に説明と同意を基本としたインフォームドコンセント（Informed consent、以下、IC）が行われるようになった。しかし近年では、ICでは、患者が医師から与えられた情報を十分に理解できていないことや、個別具体的な患者の価値観や選好が治療法の選択に反映されにくいことが指摘され、患者と医療者が情報交換をしながら共同で意思決定を行っていくシェアード・ディシジョン・メイキング（Shared Decision Making、以下、SDM）の概念が広く導入されるようになった。腎臓病領域においても、治療の選択・意思決定にあたっては、SDMのアプローチが必要な領域と考えられている。

当院では2010年に、慢性腎不全患者の腎代替療法における意思決定支援を行うことを目的として、腎移植・透析療法相談外来（以下、相談外来）を開設した。相談外来を実施しているのは、泌尿器科病棟看護師であり、年間の紹介件数は約20件である。医療者が治療についての正しい情報を提供し、生活環境や背景についての情報を聴取した上で、患者・家族の希望に沿った最適な治療法が決定できるよう支援している。

今回、当院相談外来の活動の現状と、SDMの実践について報告する。